

# 留 学 報 告 書

記入日:2016年8月20日

所属学部／研究科・学科／専攻	教養デザイン研究科・教養デザイン専攻
留学先国	中国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: 北京大学 現地言語: 北京大学
留学期間	2015年9月～2016年7月
留学した時の学年	博士前期課程2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	対外漢語教育学院 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年7月22日
明治大学卒業予定年	2017年3月
<b>留学先大学について</b>	
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:9月上旬～1月上旬 2学期:2月下旬～6月上旬 3学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	4
創立年	1898年

留学費用項目	現地通貨(元)	円	備考
授業料	不明	不明円	
宿舍費	2700元	56000円	/月
食費	1000元	20000円	/月
図書費	100元	2000円	/月
学用品費	0	0円	/月
教養娯楽費	500元	10000円	/月
被服費	0	0円	/月
医療費	0	0円	/月
保険費	600元	12000円	形態:海外保険
渡航旅費	4500元	90000円	
雑費	0	0円	/月
その他		円	
その他		円	
その他		円	
<b>合計</b>	4300元	86000円	/月+渡航費・保険費

## 渡航関連

渡航経路:空路

渡航費用

チケットの種類	片道
往路	約5万円
復路	約4万円
合計	約9万円

渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。

HIS

## 滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

知人宅及び大学宿舎

2)部屋の形態

個室 OR 相部屋(同居人数 1)

3)住居を探した方法:

インターネットフォーム

4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

二人部屋ということ、キャンパスから少し離れている(自転車で 15 分程度)ということ以外に、宿舎(万柳)の条件は比較的良好

## 現地情報

1)現地で病院にかかったことはありますか?大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった利用した:バスに乗車中に事故に会い、顔を 5 針縫う

2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

学外の日本人学生と、大学の留学生事務室

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

外務省海外安全ホームページなど。特に具体的な防犯対策はしていない。

4)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

宿舎の自分の部屋では全く問題なくインターネットの使用が可能であった。キャンパス内でも基本的に接続の問題はなかった。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

常にキャッシュパスポートを携帯し、国内に居る身内に送金してもらっていた。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

しいて挙げるのであれば、日本食など

## 進路について

1) 進路

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

特に無し

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

博士課程へ進学予定

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。

やはり早いうちから、「語学」の能力は、テクニカルな問題として割りきって向上に務めていたほうが、その後の選択肢が広がるように感じる。また絶対的な「知識量」は語学力以前に基礎条件として考えていたほうが、進学を志すにあたってスムーズに進むように思う。

7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

特に無し

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
6 単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:修了に必要な残りの単位数が僅かなため)
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
中国現代文学(前)		中国近代文学
科目設置学部・研究科	中国語文学系	
履修期間	一学期	
単位数	2	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)	
授業時間数	1週間に 50 分が 1 回	
担当教授	高遠東	
授業内容	中国近代文学 1917 年-1949 年の約 30 年間の歴史を「文学史」として概括する講義	
試験・課題など	中間報告としての魯迅『阿 Q 正伝』の読後レポートと期末試験	
感想を自由記入	もし、現代「新」中国建立過程の“芯”を知りたいのであれば、ぜひ受講するべきだと思う。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):
古代漢語		//
科目設置学部・研究科	中国語文学系	
履修期間	一学期	
単位数	4	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)	
授業時間数	1週間に 50 分が 4 回	
担当教授	陽栄祥	
授業内容	基本的に古代漢語(漢文)	
試験・課題など	学期中の 2 回の小テストと課題及び学期末試験	
感想を自由記入	日本の「漢文」に興味・関心があるのであれば受講しても良いかもしれない。	

### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等（形式は箇条書きなど簡単なもので構いません）

2014年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	協定校交換留学校内出願
2015年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修論準備</li> <li>・書類準備</li> </ul>
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修論準備</li> <li>・書類準備</li> </ul>
8月～9月	留学開始
10月～12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業</li> <li>・論文翻訳</li> </ul>
2016年 1月～3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業</li> <li>・テスト</li> <li>・冬季休業</li> <li>・新学期開始</li> </ul>
4月～7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業</li> <li>・シンポジウム参加</li> <li>・帰国</li> </ul>
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	基本的には修士論文及び、今後の博士課程進学の所々の準備のために留学をしようと決めました。具体的には、修士論文のテーマに関係する資料集め、そのテーマの研究を進める上で必要となる技術的なものとしての語学力(中国語)の向上、また、対象としての現代「中国」自身を知ること、このような目的から、修士期間中に一年間の留学をすることを決めました。以上のような目的はありましたが、実質的に留学をしようと決めた時は、よりあやふやなものではあったように思います。
留学のためにした準備, しておけば良かったと思う準備	やはり、住む場所は出発前に確定させておくほうが良いと感じました。自分の場合、校内の宿舍の費用が高すぎたため、出発までどこに住むかを定めることができず、到着後10日ほどは知人の家に居候しながらキャンパスへ通っていましたが、通学2時間以上かかりながら朝8時から始まるテストなどに参加するのは、かなり厳しいものでした。また、宿舍が決定するまではなかなか落ち着いて学期始めの準備や勉強する事ができず、いろいろと面倒が多々ありました。
この留学先を選んだ理由	北京を留学場所として選んだのは、やはり、上海などの経済都市とは違い、中国という国の「政治」の中心ということから、日本との性質の違いが最も明らかで看取できるのではないかという理由がまず一つです。続いてあげられるのが、その「政治」や「文化」の中心である北京には、それぞれの学術分野での第一線の研究者立ちが多く集まっているということがあります。特に自分の研究テーマも含まれる「人文」系はそれが顕著であり、そのような知識人たちと繋がりを持つという意味でも、北京という留学先として選びました。
大学・学生の雰囲気	今回の留学では、交換先の大学の正規の授業以外に、同/他大学の大学院の授業に聴講をすることがかなり多かったのですが、こちらの学生や研究者の間では大学や所属の垣根を越えた主体的な交流が多く、また、そのような雰囲気も強く、そこで勉強するということはそれに触れるということでもありました。各種のシンポジウムや講演会が日本と比にならないほどの頻度で行われ、単なるその専門分野の人たちだけでなく、全く別分野、ひいては単に興味があるというだけの人たちも多く参加するという光景を目にすることが非常に多く、そのことから学生たちの学術(狭義の「研究」)におけるものだけでなく)に対する高い意欲が見て取れました。
寮の雰囲気	自分が住んでいたのは、留学生が一般的に居住することになるキャンパス内の二つの留学生寮(勺園・中関新園)ではなく、校外の少し離れたところにある万柳という宿舎でした。これは留学生専用の宿舎ではなく、一般の中国人の学生の中に、留学生も居住するという形ではありました(居住区自体は一般学生と留学生という区分はありません)が、校外にあるという分だけ、キャンパスまでの直通バスがでていたり、食堂やスーパー、銀行、また割りと大きなジムなどもあり設備は悪くないものでした。万柳寮の中での卓球大会やビリヤード大会も行われており、馴染めばキャンパス内の宿舎よりも楽しく過ごせるかもしれません。
交友関係	留学の前半では、日本にいた頃に、日本に来ていた中国人留学生で現在帰国し中国にいる学生が多く、そのような友達を中心にいろいろな活動に誘ってもらっていました。またそのようなもとの友達を介して中国の学生や、その他の学生ではない中国人などと知り合いになりました。また留学の後半には、授業で知り合った他国の留学生や、北京大内の大学院の授業でであった大学院生の学生とも研究テーマを共有できる良き友達となることができました。
困ったこと, 大変だったこと	留学中に一番大変だったことは、やはり事故に会い、顔を5針縫ったことでした。バスに乗車中に緊急停止に会い、そこで転倒した際に顔面を強打し傷を負いました。幸い、清華大学の日本人学生の先輩と待ち合わせをしていたことや、バスの運転手が信頼できる人だったため、その後の治療はスムーズにすすみ、大事にはいならずすみしました。しかし、いろいろと運が良かったとは言え、事故があつてすぐはかなりの緊張感と、もしここまで条件が揃わなかった時のことを考えるとそれなりに危なかったのではとも思います。
学習内容・勉強について	中国語言文学系にて、中国近代文学や古代中国語の授業を履修しながら、基本的に日本から持参した本を常に読みました。授業内容も研究テーマに“直接的”にかかわらないところも多々ありましたが、最終的には知っていなければいけない基礎的な部分も多くあり、講義形式とは言え、受講した授業科目は結果的に良いものでした。また留学後半には語学としての中国語の授業も履修するようになり、修論に関係する勉強とともに、語学能力の向上にも努め、最終的に中国で出版された書物一冊を500ページすべて時間をかけながらも読みきりました。

課題・試験について	課題については、日本の一般的な感覚よりは多いと思いますが、そこまで多すぎるわけではないと思います。というよりも、通常の授業内容に対する準備や意識が日本の一般的なものより、かなり高い意識でない、授業そのものについていけたとしても、そこから何かを学んだり、自分のものに出来るようにはならないと感じました。そこを意識し、日々勉強し、技術的な語学力が整いさえすれば、試験や最終的な提出課題もそこまで大変だと感じはしないと、個人的には思います。
大学外の活動について	留学中の大学外での活動は多々あります。たとえば留学の前半には、上にも書いたように、日本にいた頃に一緒にゼミを受けた留学生が現在清華大学に在籍中で、その友達に誘われ、日本でも有名な中国人学者先生の家に遊びに行ったり、清華大学院の授業を聴講したりしました。また、上にも書いたように、自他大学を問わず、各種のシンポジウムや講演会が日本と比にならないほどの頻度で行われており、留学の後半では、基本的に月に2、3度はそのようなシンポジウムに参加したりしました。
留学を志す人へ	とにかく「留学」なわけですから、「勉強」をするべきだと思います。一般的に海外で友達を作り、その学生たちと“交流”することが、相手を理解することかのように語られる場合が多いですが、それはそれで“楽しく”重要かも知れませんが、それ以上に、相手を本気で理解しようとするなら、まず相手がどのような文脈(歴史)の中におりものを考えているのかという基礎的な知識を持つことは必須であると同時に、それと同じ意味で、みずからの文脈を相対化し“感覚”ではなく論理的に相手に「説明」しようとする努力も不可欠です。単に「見栄え」を良くし、“かつこ良く”するのではなく、地味”なことを根気強く続けるという意識と、絶対的な「読書」量が必要だと思います。しかもその気迫は、日本人からすると、往々にして相手側、つまり海外の学生の方により強く見て取れるということは、一度彼らの学生生活を見ればすぐに感じることです。

## 1週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	中国語授業	中国語授業	中国語授業	清華大聴講	清華大聴講		
	〃	〃	古代漢語	清華大聴講	清華大聴講	日記書き	日記書き
午後	食事	食事	食事	食事	食事	食事	食事
	読書・予習 復習	中国近代文 学	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書	読書
夕刻	食事	食事	食事	食事	食事	食事	食事
夜	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書・予習 復習	読書・予習 復習

